

平成24年度水産増養殖関係研究推進会議報告書

会議責任者	増養殖研究所長
-------	---------

独立行政法人水産総合研究センター水産業関係研究開発推進会議運営規程第2条第4項に基づき、増養殖研究所の職員が関連する各ブロック別推進会議の協議に参加することで水産増養殖関係研究推進会議の本会議の開催に代えることとした。

以下に示すブロック推進会議に当所の職員が参加し、協議に加わるとともに、水産増養殖関係研究推進会議関係資料等について情報提供した。

また、養殖産業部会・魚病部会を別途開催した。なお、これらの部会の概要は別途報告する。

推 進 会 議 名	増養殖研究所からの出席者
北海道ブロック水産業関係研究開発推進会議	養殖システム部長
東北ブロック水産業関係研究開発推進会議	資源生産部長
中央ブロック水産業関係研究開発推進会議	(主催)
日本海ブロック水産業関係研究開発推進会議	業務推進部長
瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議	養殖技術部長
西海ブロック水産業関係研究開発推進会議	病害防除部長

平成24年度水産増養殖関係研究開発推進会議  
 養殖産業部会報告書

会議責任者	増養殖研究所長
-------	---------

1 開催日時及び場所

日時：平成24年11月8日（木）13：00－17：30  
 場所：伊勢シティホテル平安・桃山の間（三重県伊勢市吹上1-11-21）

2 出席者所属機関及び人数                    18機関            53名

3 結果の概要

議 題	結果の概要
1. 開会	増養殖研究所養殖システム部長が開会を宣言した。
2. 挨拶	主催者を代表して、増養殖研究所長が、第3期中期計画となつて新たな体制での2年目にあたり、新体制の点検も含めた忌憚のない議論を深めたいとの挨拶を行った。 来賓の水産庁研究指導課長から、養殖業は我が国水産業において重要な地位を占めており、国や関係研究機関が連携して一層の発展を期して活発な議論を期待する旨の挨拶があった。
3. 議事	増養殖研究所養殖技術部長を進行役に議事を進めた。
（1）報告事項	
1)平成23年度養殖産業部会に対する要望事項にかかる対応状況	養殖システム部長が、滋賀県水産試験場、岐阜県河川環境研究所、和歌山県水産試験場、埼玉県農林総合研究センター水産研究所、新潟県内水面水産試験場から昨年度提出された研究開発ニーズへの対応状況を説明した。また、養殖技術部長より、具体的な対応状況の補足説明を行った。
2)平成24年度研究実施概要及び平成25年度研究計画概要	養殖システム部長が、現時点でデータベース上に登録されている各県の水産研究開発課題登録情報について概要を説明し、未登録機関については登録を呼びかけた。また、水研センターが実施する課題のうちトピック課題として、中央水研よりニホンウナギ・太平洋クロマグロ等のゲノム解析、増養殖研からシ

<p>3)研究会などの活動状況</p>	<p>ラスウナギの安定生産技術の開発、アサリ等の垂下養殖システムの開発について説明を行った。</p> <p>養殖システム部長が、養殖産業部会傘下の「アコヤガイ研究会」、「クエ・マハタ種苗生産研究会」、「育種情報交換会」、「育種研修会」の開催要領案を報告し、昨年度から傘下となった「アワビ研究会」については、資源生産部長より概要の説明がなされた。あわせて養殖システム部長が、西海区水産研究所が事務局を務める「全国ノリ研究会」の開催結果や瀬戸内海区水産研究所が主催する「二枚貝類飼育技術研究会」の開催案内について紹介した。さらに、養殖技術部主幹研究員がジーンバンク事業について紹介した。</p>
<p>(2) 協議事項</p> <p>1)平成24度水産研究開発成果情報候補課題</p> <p>2)養殖産業部会に対する要望事項</p>	<p>成果情報候補課題について三重県より1題、増養殖研より2題の提案と説明があり、増養殖研究所が図表や字句の修正等に責任を持つことを前提に、全国推進会議へ提出することを承認した。</p> <p>中央ブロック推進会議からの付託事項について。 中央ブロック推進会議から当部会へ付託されている事項のうち、魚類養殖の飼料コスト削減に関する研究について、養殖システム部長から今部会で開催するミニシンポジウムで論議する旨の報告を行った。また、ナマコの資源増殖に関する全国会議の再開について、養殖技術部長より対応状況について説明があり、「ナマコ研究会」の立ち上げについては全国対応となることから、本部会終了後直ちに関係県へのアンケートによる意見聴取を行い、水産庁とも協議のうえ前向きに判断したいとの報告を行った。</p> <p>研究開発ニーズについて。 養殖産業部会および増養殖研として検討すべき研究開発ニーズとして、和歌山県より「アユの安価な飼育飼料の研究」、宮城県より「サケマス類養殖における遺伝子解析を活用した育種研究」、新潟県より「優良品種作出に利用可能な全雌化・不妊化技術の開発」、京都府より「二枚貝類の活力指標の開発」、鹿児島県より「カンパチ種苗の完全養殖及び早期種苗利用型養殖技術の開発」があげられ、関係水研とも連携の上対応方針案が示された。また、カンパチ養殖に関連して高知県より、今</p>

<p>3) 養殖産業部会における内水面養殖業への対応について</p> <p>4. ミニシンポジウム</p> <p>4. 閉会</p>	<p>後としてカンパチ養殖に力を入れるとともに優良品種の作出など水研センターに協力を要請したい旨の発言があった。</p> <p>昨年の本部会において、増養殖研究所長が提案した養殖産業部会への内水面養殖業の統合について、業務推進部長からの補足説明がなされたのち、あらためて参加各県から意見を求めた結果、概ね賛同を得られたが産業規模の大きな海面養殖に内水面養殖の問題が埋没するのではといった危惧も表明され、最終的な判断は内水面関係研究開発推進会議の協議にゆだねることとした。</p> <p>養殖経営・経済の諸問題解決への飼餌料研究のアプローチ」をテーマに、下関市立大学浜田英嗣教授から「養殖産業の奇跡と進路」と題して、また増養殖研山本グループ長より「飼餌料研究開発の方向性に関する意思統一に向けて」と題して講演があり、養殖業を取り巻く現状と今後の飼餌料研究について意見交換が行われた。養殖システム部長から、養殖産業の現状を見据えた飼餌料研究開発にむけて、行政や試験研究機関、飼料会社等を交えた検討協議の場を設けることを提案し、賛同が得られた。</p> <p>進行役を務めた養殖技術部長が閉会を宣言した。</p>
--	---

平成24年度水産増養殖関係研究開発推進会議  
魚病部会報告書

会議責任者	増養殖研究所長
-------	---------

1 開催日時及び場所

日時：平成24年11月30日（金） 13：00－17：00

場所：伊勢シティホテル平安・桃山の間（三重県伊勢市吹上 1-11-21）

2 出席者所属機関及び人数

23機関 47名

3 結果の概要

議 題	結果の概要
開 会	増養殖研究所病害防除部吉浦主任研究員の司会で議事を進行した。
挨 拶	日本に未侵入の病気が入ってくることを阻止しなければならず、そのための準備・体制を整える必要がある。一方で、国内で問題となっている魚病も多くあり、それらへの対応が疎かになってはいけない。魚病の問題はいろいろと多岐にわたっており、病害防除部と魚病診断・研修センターの職員だけでは皆さんに満足いただける成果を上げることがなかなか難しくなっている。皆様との協力体制をさらに深めるために、限られた時間ではあるが、活発に議論・意見交換をしていただきたい、との挨拶があった。
議事	
1) 昨年度要望等への対応	病害防除部長から、昨年度要望のあった「アワビ類のキセノハリオチス症」、「ヒラメのクドア・セブテンブクタータ症」、「カキヘルペスウイルス症」、「水産用医薬品の開発促進」について、昨年度及び今年度の試験結果の概要と計画が説明された。「診断マニュアルの改良、公開」については、更新内容が報告された。
2) 魚病を取り巻く情勢報告	消費・安全局水産安全室和田係長より、「魚病被害の概観」、「医薬品の開発状況」、「コイヘルペスウイルス病対策の見直し」、「キセノハリオチスのガイドライン」、「カナダや中国等との水産動物の防疫協議」、「カキヘルペスウイルス1型 $\mu$ var 変異株」、「東南アジアのエビの疾病」等について現状の説明があった。 水産動物の防疫対策は、未然防止に尽きると考えており、さらなる徹底について協力をお願いしたいとのこと。
3) 地域合同検討会報告	地域合同検討会幹事県より、本年度のブロックにおける魚病発生状況、トピックス・問題点、要望等の取り纏め報告が行われ、質疑があった。
4) 病害防除関連部局	病害防除部長から、増養殖研病害防除関連部局の研究・事業課

<p>の研究・事業成果及び計画について</p>	<p>題の昨年度成果概要及び今年度の成果概要と計画が紹介された。各課題は、「運営交付金」、「消費安全局水産安全室からの委託事業」、「農林水産技術会議の競争的資金」、「文科省の科研費」により実施されており、予算額では半分強が水産安全室からの委託費による。実施した依頼診断や研修、昨年の本会議以降に公表した論文、口頭発表、公刊図書、プレス発表が紹介された。</p>
<p>5) 研究会報告</p>	<p>「魚病症例研究会」、「水産用医薬品開発促進連絡会」、「クドア研究会」の活動内容が、湯浅グループ長、中易グループ長、森グループ長からそれぞれ紹介された。クドア研究会は来年2月8日に開催される予定。</p>
<p>6) 養殖衛生対策推進事業概要</p>	<p>NPO法人養殖衛生対策推進協議会の岩下氏より、今年度の事業内容が紹介された。</p>
<p>7) 総合討議</p>	<p>病害防除部長が座長を務めた。 はじめに各要望事項（キセノハリオチス症、KHV病、ヒラメクドア症、かきのボナミア症、カンパチの眼球異常を呈する不明病水産用医薬品、機器整備、魚病診断・研修センターのウェブサイト）のうち行政に関連する項目については水産安全室の和田係長より、研究に関連する項目については病害防除部長から回答及び質疑応答があった。キセノハリオチス研究については、討議結果を踏まえ、計画通り進めていくことが了承された。 次に、主要研究成果情報候補3課題の説明があり、いずれも採用することが承認された。</p>
<p>8) 出席者の講評</p>	<p>日本魚病学会会長、魚類防疫士協議会会長、業界代表から講評があり、食品として輸入されている活具により危険な病原体が国内に持ち込まれることへの懸念や、当所のリコンビナントワクチン開発やクドア研究への高い評価と期待が述べられた。また、新たな課題として、魚病関連情報の伝達方法の改善、ワクチン普及後の問題点への取り組み、リスク管理におけるゾーニングの活用方法、今後も増加が予想されるマイナー魚種への対応等の必要性が指摘された。</p>
<p>閉 会</p>	<p>病害防除部長が閉会を宣言した。</p>